

**報告**  
**オンラインセミナー**  
**みんなでつくる「被災者とコミュニティ」を中心にした支援入門！**  
**スフィア・スタンダード**  
**～人道支援の国際基準を知る～**

2022年1月15日（土）13:30-16:00 開催

ファシリテーター：勝井裕美（シャプラニール・ネパール事務所長）

福田紀子（グローバル・コンサーン研究所、スフィア・トレーナー）

担当所員：岡本菜穂子（グローバル・コンサーン研究所、上智大学総合人間科学部）

スフィア基準は、人道支援の関係者の中では、国際的な共通理解の基盤として普及している。スフィア基準では、人権／権利に基づく考え方を基本に、支援活動の「質と説明責任」を果たすために何を考え、目指すべきかについての理念や倫理が具体的な行動の示唆とともに示されている。

災害大国日本では、人道支援が必要になる場面は自然災害を思い起こすことが多いが、原子力災害や世界的に大流行しているコロナ禍でも人道支援は必要である。誰もが被災者として、また支援者として知っておきたいスフィア基準についてのオンラインセミナーを、今回は学生、一般向けにトライアル企画として実施した。

ファシリテーターのひとり、現在ネパールで国際協力活動中の勝井裕美は、日本でも2016年の熊本地震の際に支援活動を行なった人物である。もうひとり、当研究所の職員、福田紀子は、スフィア基準の生まれた90年代に人道支援に関わり、参加型学習のファシリテーターとして人権教育等を行ってきた人物である。

当日は、まず、「人道支援とは」で「人道4原則」や「災害とは何か」について学び、「スフィアの背景」として人類が「尊厳を持つ人間」の姿をどう獲得してきたのかの歴史を概観した。「スフィア基準」の直接の引き金となったルワンダ虐殺時の様子を知る等、「質と説明責任」が求められる前提について学んだ。

次に、スフィア・ハンドブックに示される「2つの信念」「脆弱性の理解と対応力」などライツベース・アプローチ（人権に基づく考え方）のエッセンスの学習を通して、スフィア基準には、技術的分野と言われる「給水と衛生、衛生促進」「食糧安全保障と栄養」「避難所及び避難先の居住地」「保健医療」という人間が生きるために必要な分野の最低基準と指標や目安としての数値が示されているのだが、基本は「考え方」であることを学んだ。

後半は、震災避難所の仮想の事例を用いて、具体的な「支援の問題点」を手がかりに、スフィアの「必須基準（Core Humanitarian Standard/CHS）」9つの柱の読み解きと、講師の経験を交えた解説を行なった。必須基準は、どんな支援活動であっても、適切、公正であ

ろうとすれば、必ず必要とされるもので、支援の現場だけでなく、組織としての支援団体の責任を明示し、ドナー（寄付者）やボランティア他あらゆる関係者も知るべき指針である。

オンライン上の限られた時間ではあったが、参加型のグループワークを交えながらのセミナーであった。参加者からは「具体的なケースとともに学べたので良かった」「グループワークで様々なお話が聞けて楽しかった」「国がもっと知らせるべき」「シリーズ化したらまた参加したい」「次回を楽しみにしている」などの感想があった。

参加者から投げられた「尊厳とは何か」の問いはこれからも続くものだと思う。スフィアのいろいろな部分を読み解き、いろいろな場面で実践する中で「人間の尊厳」を実現していくことを考えるきっかけにもなった。

福田紀子（ふくだ のりこ）（グローバル・コンサーン研究所）



資料1 人道支援の必須基準 (CHS)



資料2 スフィアハンドブック（表紙）

S